

千葉と東京 総武線の大 業務移管許すな 英陶の輪 ひろがる

日刊 勤労千葉

86. 1. 27

No. 2149

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二二二七二〇七

「業務移管攻撃」に対し、断固ストライキで反撃しようという声は、千葉・東京の各職場でそくそくとわき起っている。これに対して当局は、勤労千葉に対する報復的・みせしめの重処分を強行し、国労の中に分断をもちこむことで闘いをおしつぶそうとしている。こんなことは許せない。第一波ストを通し創り出した全国鉄労働者の活性化、怒りの決起をさらに巨大なものとし、必ず十万人首切りを阻止するためにも、不当処分粉碎・業務移管阻止を焦点とする怒りの第二波ストを貫徹しよう。

闘いの展望は、大きく切り拓かれた

「業務移管」攻撃は、第一波ストへの報復として、勤労革マルと結託して出された全く理不尽極まりないものだ。勤労千葉つぶし、さらには、国労分断・解体攻撃そのものだ。しかし、あせりかられ急拠うち出されてきたが故に、その凶暴な本質が誰の目にもわかる形でつき出されてしまい、当局の目論見とは逆に、勤労千葉はもろろん、国労の労働者の怒りをもかきたて、闘いへの決起をつきつけるものとなっている。

事実、勤労千葉の第一波ストに触発された職場の活性化と結びついた労働者の怒りは、国労千葉地本・東京地本をもつき動かし、二・三月闘争の爆発は不可避の状況、当局との真向からの決戦情勢が拓かれている。

「ストライキで起とう！」が 全国鉄労働者の声に

国労中野電車区分会掲示によれば、国労東京地本は、十四日の業務移管提案に対し、直ちに「極めて政治的意図を持っている」と断ぜざるを得ない。「協力できない。線見・訓練には応じない」ことを当局に申し入れ、これに基づき、作業移管区である東京地本・中野（総武線緩行）・山町（総武線快速）・松戸（我孫子線）の三分会は、

断固闘いを開始している。各職場で、「ストライキで闘おう」との声がわきおこっている。

国労千葉地本も、千葉運転区分会（快速）、津田沼電車区分会（緩行）の機関紙によると、一月十八日の電協定期委員会で「ストで闘うべきだ」との声が圧倒的に出され、地本も「基本的にストで闘う」との考え方を明らかにしたと言われている。

二・三月の決起がこの一年を決める

「業務移管攻撃は、今回だけで終わるものではない。われわれが黙っていたとしたら「61・日」では、某地統廃合とからめたもつと大規模な攻撃が不可避である。まさに、二・三月の闘いが今後的一切を決める。

勝利の最大のカギは、「労働者は脅せば黙る」なる思いがあつた重大不当処分攻撃を徹底的に打ちまくること。この怒りと結合した線見阻止闘争を全力で闘いぬくこと。そして何よりも、千葉・東京の国労の労働者の決起と連携した第二波闘争の爆発である。

展望は、大きく切り拓かれている。不当重処分攻撃に、怒りも新たに、いざ二・三月決戦へ猛然と突入しよう。

国労東京地本の当局への申し入れ

業務移管阻止、中野・松戸・田町で千葉局の作業員組合の提案をしていけるか、どの相手を示さないでいるものか、組合は、極めて政治的意図を持っており、断ぜざるを得ない。千葉にも国労があり、断ぜざるものではない。したがって、これについては協力できない。前作業としての線見・訓練は応じない。ことを申し入れておく。

61397改訂版の発行
業務移管阻止
カーテン降ろし
全職場闘争
国労千葉地本
（一月二十一日号）
国労千葉地本
（一月二十一日号）
国労千葉地本
（一月二十一日号）
国労千葉地本
（一月二十一日号）

業務移管阻止
闘争の展望
国労千葉地本
（一月二十一日号）
国労千葉地本
（一月二十一日号）
国労千葉地本
（一月二十一日号）
国労千葉地本
（一月二十一日号）